



第 129 号

発 行 者  
東筑摩塩尻教育会  
編 集 者  
会誌会報委員会

# 教師の本分

東筑摩塩尻教育会長 柳生 高広



## 車掌の本分

中学校で国語を教えていたときに、「車掌の本分」(かんべむさし著)という教材がありました。とある遊園地で、訓練されたサルが自分たちの手で運転する「モンキー・トレイン」を運営し、子どもたちに大好評を得るといふものです。しかし、人気が出るにつれ、モンキー・トレインはどんどん車両を増やし、狭い遊園地でつながるぐらい長くなります。そ

して、ついに車掌が運転手に後ろから見られるような状況になってしまいました。サルの車掌は悩みます。

「列車の最後尾にいて、後ろから安全な列車の運行をチェックするのが私の仕事なのに…。こんな状況は車掌の本来の仕事ではない。」

爺さんサルの車掌は、本分を全うできない苦しさに悩み、アフリカの広大な大地を走る列車に意気揚々と乗車する夢を見ます。

## 教師の本分

信濃教育会の後藤会長と話をする機会があったときに、教師としてのあり方が熱く語る後藤先生に、教師は本分を全うすべきだという意気を感じ、前述の教科書の話思い出しました。教師の本分とは何か。信濃教育一五七七号の巻頭言で、

後藤会長はこのように述べています。

教員の働き方改革では、教育実践者である教員自身による意識の喚起と果敢な取り組みが極めて重要である。信州教育の理念として先生方が大切にしてきた「子ども中心の教育」と「厳しい教師の精進」の具現にこれまで以上に努めなければならない。教員の働き方改革は、単に勤務時間の枠の中に収められる対処や対応だけでなく、高度職業専門人として学び続けなければならない教員の働き方に関する改革なのである。

我々には、生徒・保護者だけでなく、教育委員会や行政・地域の皆さん等、あらゆるところから働きかけがあります。子どもたちにとって大事なことが多く、仕事はますます増え、やるべきことの順序を考えたり、精選を考えたりするのは大変です。その結果、本来教師としての力量を高めるために自主的自発的に行われるべき研修等が、精選の対象になってしまうことがないでしょうか。後藤先生が言われる「教員自身による意識の喚起と果敢な取り組み」は、教師の本分を見極める力をつけることを意味しているように思えてなりません。そのうえで、勤務時間を少しでも縮減して、個人としての生活も大事にできる教員生活を目指していただきたいと思えます。

頑固者の車掌の爺さんサルは、ご褒美

のバナナも食べることを拒否します。そして、仕事を拒否しピクリとも動きません。そして、心の中でつぶやきました。「問題の本質はそんなことではない。誇りを持って生きたい。」

## 教育会総集会有りがとうございました

柿崎和子会員による木曾榎川小学校の実践は、子どもを中心にすえたスチューデントファーストの教育活動でした。地域や児童の実態を見極め、子どもたちの思考を大事にして進めた実践は、私たちに感動を与えてくれました。小規模校だからとか小学校だからとか、そういうことではなく、教師側に意志があれば目標に近づくことができるということです。松本猛さんによる講演会も、「私は絵と結婚するの」の言葉に象徴されるように、波乱万丈の人生を歩みながらも絵を描くという自分の本分を生涯をかけて貫き通した、母いわさきちひろが語られました。一般の聴講者も近年の総集会の中では、最多でした。いさわきちひろの生き方に共感するたくさんの方々がいることを改めて感じさせられました。

みなさん、一生勉強です。学び続けましょう。  
(塩尻中学校)



# 特集

## ◆平成三十年度 東筑摩塩尻教育会総集会 平成三十年五月十二日(土) 塩尻市レザンホール

### 会員発表

#### ふるさとに誇りを持ち、 地域に貢献する意欲を育 む「地域学習とチラシ作り」

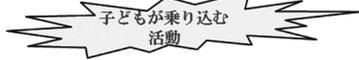
柿崎 和子

五月十二日の教育会総会では、木曾榎川小学校の実践を発表させていただきました。白樺教育の伝統を持つリベラルな塩筑の教育風土の中、素晴らしい先生方と出会い、実践を行うことができ、大変感謝しております。

会員発表では、実践内容や子どもたちの様子をパワーポイントやビデオにて紹介いたしましたので、ここではふるさとに誇りを持ち、地域に貢献する意欲を育む総合的な学習の支援の在り方を中心に、再度掲載させていただきます。

三年生の子どもたちと総合的な学習の時間を行うにあたり、私はカリキュラムの方向を三点

- 総合的な学習のカリキュラムの方向
- 一 体験と表現を連動させる。(体験活動と表現活動の連動)の学習も含める。(体験活動と表現活動の連動)
  - 二 教科と柔軟に関連付け、表現に力点を置く。(横断的総合的な学習)
  - 三 外の世界に臨することなく友好的にかかわれるよう、多くの人々と交流をはかる。(交流活動)



考えました。

活動を始めるにあたり、私が特に大事にしたことは、「子どもが乗り込む活動」を行うことです。子どもが乗り込む体験を積み重ねることで、知的で深い学びにも次第に入り込んでいくと考えるからです。社会科と関連付けた地域学習としての

の地域見学を、子どもたちはとても興味を持ち心待ちにしていましたので、その体験を短歌で表現することにしました。



贅川の すごいところが  
見れたんだとても楽しい  
みんなの思い出 K子



古い町 大切に守って  
奈良井の人は みんなやさしい S男



うるしのこと  
教えてくれて  
ありがとう  
うるしのこと  
すきになったよ  
N子

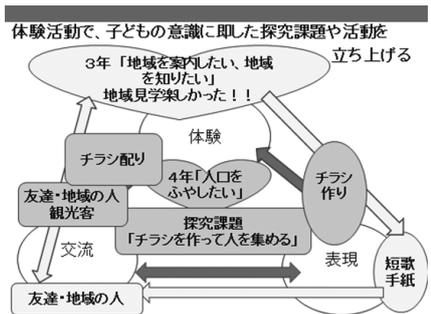
井、贅川の見学では、どの地域でも温かく迎えていただき、子どもたちは元気に挨拶をし、地域の特色や良さを楽しく学ぶことができました。

通信に載せた短歌を読み合うと、面白い歌には笑い、素敵な歌には拍手をして表現を味わう子どもたちでした。見学先にも短歌カードを送ると喜ばれました。本校では、伝統工芸士さんに指導を受け、漆塗りをする「ふるさと学習」が三年生から始まります。秋、むろから漆器を取り出すと、「きれいい!」「ピカピカだ!」と声をあげました。国語の学習として、工芸士さんたちにお札の手紙を書いて送ると、「嬉しくて涙が出ました」と、返札の手紙やお電話をくださる方もいました。

翌年、四年生の最初の総合的な学習の時間に、「木曾榎川で問題に感じていること、困っていること」を話し合うと、「人が減っている。この前も伝統工芸士さんが亡くなった」「今年、贅川の一年生がいらない」「おばあちゃんのお葬式の知らせは来るのに、赤ちゃん誕生の知らせは少ない」「空き家が多い。空き家のポストに、チラシや新聞がはさまったまま」「雑草がボーボー、障子が破れている」「お年寄りの一人暮らしの人が亡くなる」と、空き家になる「空き家に行くと、掃除をしたい」「これ以上減ってほしくない」「人が増えてほしい」「空き家はきれいに住んでほしい」「木曾榎川は、いいところだよってアピールして、人を集

めたい」「良い所を探して、チラシを作って、漆器祭で配ればいい」と話が展開し、子どもたちが進んで動き出すチラシ作りの活動が立ち上がりました。

振り返れば、「チラシ作り」の活動は、三年生の地域学習が土台となっていたと思われまます。「自分の地域を案内したい、住んでいない地域を知りたい」という子どもたちの気持ちから、見学・交流し、その体験に満足して、短歌や手紙を書き、更に交流が深まりました。四年生の活動は、これまでの経験から、「人口を増やしたい」という子どもたちの願いが生まれ、探究課題「チラシを作って人を集める」がすわり、主体的協働的に動く「チラシ作り」「チラシ配り」の総合学習が可能になりました。



チラシ活動では、子どもが自ら勇気を出して地域のために動くことで、外の世界とつながる喜びを感じ、関わって下さった人に感謝の気持ちを持ち、自分自身の生き方を考える機会となりました。

### 会員の感想

#### 総集会から感じたこと

松崎 哲

東筑摩塩筑教育会総集会は音楽同好会による歌「絆」、男性と女性の声が合わる美しいハーモニーから始まった。

#### 一、塩筑教育の源流

柳生会長の「塩筑教育の源流」の中で、塩筑教育は人権主義教育のもと行われているという話があった。一つには「高い理想や深い学問、それを追求できる同僚性」、二つには「子どもの尊重と教育愛」、三つには「地域とともに」ということであつた。

話の中で「人格」という言葉にハッとさせられた。教育の目的は「人格の形成」である。私にできているのだろうか…大変不安になった。「知徳体の調和のとれた人格の完成」という不易な目的の達成のためには、確かな学力の向上や子どもの尊重、心の教育の充実、地域での学びなど改めて大切だと知ることができた。

また昨今「外国語活動の充実」や「道徳の教科化」「プログラミング教育」など教育も多様に変化している。それぞれの活動が最終的に不易たる人格の形成に帰結していかねばならない。「不易と流行の根本は一つ」、子どもたちのために今の私に何ができるのか、試行錯誤し

ながら学び続けていきたい。

#### 二、子どもが乗り込む活動を

木曾榎川小学校の柿崎先生が行った総合の授業の発表をお聞きした。学校人口を増やすためにふるさとを子どもたち自身が自覚し、木曾榎川に興味を持つてもらえるようにチラシを工夫して作る姿があつた。地域のことを知り、感じたことを自分の言葉（短歌）で表現することを通して、他人事ではなく自分事として地域の問題をとらえることができているように感じた。子どもたちが自ら「やりたい」と思える活動を仕掛けるためには、子どもたちと同じ目線に立ち、また先を見通して進めていかなければならない。柿崎先生と子どもたちの熱意、地域への思いを感じる発表であつた。

#### 三、創造力を広げる

安曇野ちひろ美術館の前館長 松本猛さんが生誕百周年を迎えた母親の絵本作家いわさきちひろさんについて講演をされた。ちひろさんの絵には第二次世界大戦やベトナム戦争の戦火の中の記憶や光景を描いたものがあり、表情や色合いから当時の悲惨さが伝わってくるように感じた。また、松本さんはちひろさんが赤ちゃんや子どもたちの絵を独



特の画法で描いている中で、子どもの視線の先にいるであろう母親やその場の愛情や空気も一緒に描いていることを述べていた。絵を鑑賞する際には、人物が何を見ているのか、そこではどんな音が鳴っているのかなど想像力を膨らませて鑑賞することで、創造力を広げることにもつながっていくという話もあつた。作品の見方だけでなく、日頃の物の見方でも生かしていきたいと感じた。

(桔梗小学校)

#### 人のつながりを大切に する塩筑教育会総集会に学ぶ

田中真由美

教育会合唱団の皆さんの「絆」「ほらね、」の合唱から始まった教育会総集会でした。心に残ったのは「ほらね、」の途中から団員の皆さんがステージ上で隊形を変化させて、女性・男性が交互に並んで歌声を響かせていたことです。演奏としてとても難しい形態であると思うのですが、お互いの歌声を聴き合いながら調和のある歌声となり塩筑教育会会員の「絆」を象徴している演奏に思えました。柳生教育会長のご挨拶では、今日まで



「私がチラシの活動をして良かったことは、みんなで協力してチラシ配れたことです。小学生が作ったチラシでも観光客の人は喜んで自分からも持って行ってくださるので、とてもうれしかったです。私が学んだことは、地域の人のやさしさが学べました。協力し合う気持ちがあることを学びました。私が成長したことは、知らない人に積極的に話し、恥ずかしがらないうちでチラシを配れたことです。いっしょには、恥ずかしくて、人見知りな面があり、知らない人には話せなかったけど、Y子ちゃんがいろいろ話していたので、「私もがんばらなきゃ」と思い、勇気づけられて、チラシをわたすことができたので、うれしかったです。K子」



「僕たちがチラシ配りをして良かったことは、チラシのこう果があつて、東京の池ぶくろから、Yさんが来るかもしれない事、学んだことは、何にしても、努力をしないと何も得られないこと。チラシも作って配らなければ、こう果は、なかった。だから、『努力は大切だな』と思った。成長したことは、勇気を出してチラシを配ったこと。最初はぎんちゃんとして、全然配れなかったけど、ちょっとずつ勇気を出して行ったら、だんだん知らない人でも配れてきて、一人20部でも、あつという間に終わってしまった。それからほくは、ぎんちゃんとしても、勇気を出しています。Y男」

(木曾榎川小学校)



講演は、「生誕百年母ちひろを語る」と題した、岩崎ちひろ

脈々と流れている「おおらかで権威に屈せず時流に流されず常に真なるものを求める」塩筑教育の根源に触れさせていただいた思いがします。「何を成すべきかではなく、いかにあるべきか」というお言葉を心に刻み、明日からまた子どもたちに向き合っていきたいと考えました。

会員発表木曾榎川小学校柿崎和子先生のチラシ作りの活動は、榎川の地域に根ざしたダイナミックな活動だと思えました。子どもたちが地域に出て、漆器工芸職人さんと触れ合ったり奈良井宿の見学をしたりするなかで、自分たちを取り巻く地域の人々の温かさや空き家が増え続ける地域の現状を感じ取る経験があったからこそ、ふるさとのために自分たちができることをしたいという子どもたちの内面からの求めとなったのだと思いました。子どもとともに歩み、その心を醸成していく柿崎先生の姿がすばらしいと思えました。受付でいただいた子どもたち手作りのチラシの実物を手にして、子どもたちのこれまでの学びの足跡やふるさとに寄せる思いがいっぱいにつつまつたものであると感じ、観光客にこれを手渡すときの子どもたちの胸のときめきがともに感じられる気がしました。

さんのご長男松本猛氏によるものでした。あの温かいちひろ作品の生まれてきた背景や、今まで感じたことのない作品の秘められた表と裏の存在について気づかされました。特に心に残ったのは、ちひろ作品に垣間見ることのできる暗さのある一面には、ちひろ自ら経験した空襲の悲惨さや軍隊関係の仕事に従事していた両親の影響を受けていること、また宮澤賢治の世界観にも多大な影響を受けていることが感じられるということです。

そして、ちひろ作品に登場する赤ちゃんと母親の間にある空気感や愛情など、そこに描かれていないものまでを感じとる作品の楽しみ方についても教えていただきました。また、作品を観てこのような気づきを大いに語り合っほしいのが、ちひろ美術館であるとお話いただきました。わたしも、今後機会を見つけてちひろ美術館に足を運び、そこに描かれていない空気感を味わい、誰かと語り合いながら作品を一層楽しみたいと思えました。

塩筑教育会が重んじてきた「人と人とのつながり」をこの教育会総会・教育講演会とおしても肌で感じることで、半日を充実した研鑽の場として過ごさせていただきました。(麻績小学校)

## 歌によせて

西森 瑞恵

今春、両小野中学校へ赴任して早々に、

岩下史弥校長先生から「五月の教育会総集会、オーブニングの合唱に参加してくれないだろうか」とお話をいただきました。もしかするとそれは依頼ではなく「当然、参加するよね」という決定だったのかもしれないが、私からは「ぜひ参加させてください」という強い気持ちで返事をさせていただきました。それというのも、その合唱で指揮を担当する岩下先生は今年度で退職が決まっております、総集会で指揮をされるのも最後になるだろうとお聞きしていたからです。先生は長年に渡って小学校、中学校で合唱活動に携わり、多くの子どもたちに歌う楽しさを教えてきました。私も小学校時代に合唱部でお世話になって、その時の経験から音楽の教師を目指すようになり、今こうして拙いながらも音楽で子どもたちと関わる事ができています。その大恩師の岩下先生からお声がけいただいたことが嬉しく、練習にも励むことができました。

合唱に参加した先生方の中には、私と同じような気持ちの方が多かったように思います。オーブニング合唱団は四十人以上の大きな団体となりました。昨年よりも大勢になった人数を見て岩下先生はとても驚いていらっしゃいましたが、全員がどこか「最後の合唱」に名残惜しさを感じていたのかもしれない。

今回歌った「絆」「ほらね、」の二曲は小学生や中学生向けの曲集にもよく載る合唱曲です。特に「ほらね、」は、両小



野中学校の全校音楽として生徒が練習している歌でもあります。普段指導している立場で聞くこの歌と、指導を受ける立場で歌うこの歌とは感覚も違い、私としては岩下先生のご指導を授業のつもりで受けていました。歌いながら、自分が生徒に指導する時はこの難しい歌い方をどう指導すればいいか、この曲の魅力をどうしたら伝えられるか、などと考えていました。毛涯先生の教師の十戒に「教師の力以上には子どもは伸びない。精進を怠るな」とあります。生徒に物事を教える時、私たちはその良いところを知り、感じていなければなりません。岩下先生から私に伝わったものがあつたように、私も子どもたちに伝えるものがあつたい。そう強く思い直しました。

総集会の本番で合唱が終わった後、聞いてくださった先生方から「いい曲で、いい合唱だったよ」と感想をいただきました。木曾榎川小学校の発表や松本猛さんの講演と同じく、皆さんに伝わるものがあつたなら嬉しく思います。

(両小野中学校)

平成三十年度

# 塩筑教育会組織

## 役員

会長(代表理事)	柳生 高広(塩尻中)
副会長	山中 秀樹(朝日小)
理事	横山 義雄(事務局長)
	高山 雪
	赤津 勝広
監事	小坂 幸恵(書記)
	窪田 尚幸(坂井小)
	木戸岡和孝(定時総会まで)
	福山眞太郎(定期総会から)
常任委員長	西村 政和(桔梗小)
副委員長	牛山 雅恵(塩尻西小)
常任委員	宮澤 浩(聖南中)
	林 とよ美(洗馬小)
	宮川源三郎(生坂小)
	折橋 善文(宗賀小)
	岩下 史弥(両小野中)
	齊藤 芳樹(木曾榑川小)
総 会	議長 齊藤 芳樹(木曾榑川小)
	副議長 宮下智恵美(筑北中)
	百瀬みさ子 会津 健市 佐藤みち子
	二宮 聡志 早田 純 大谷 紀子
	小野 拓哉 松井 美香 原 貴志
	田中 正幸 北澤 秀憲 堀内 勝
	清水 義浩 安江 克也 喜多 篤史
	村石真理子 召田 和美 鳥海 康
	下平 良洋 青木 修 小松 猛
	美斎津昭博 林 伸次 山田 淳子
	宮下 和久 竹下 俊明 遠藤 美春
	戸谷 千枝 木船 威 堀田 茂樹
	小野澤 健

## 本年度事業計画

### 一 各種研究委員会の推進について

#### 1 各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩尻教育会会の目的である「会員相互の研鑽により、職能の向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点を踏まえて進めていく。

- (1) 研究や実践、並びにそれらの情報収集・情報交換を通して、会員相互の人間関係を密にし、職能の向上を図る。
- (2) 塩筑教育の課題を解決するため、できる限り会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。
- (3) 塩筑教育の進展を期するため、会員やその他の教職員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をする。

### 2 研究主題および委員名

◎世話係 ○委員長

#### 課題追究部

##### 小中連携(塩尻1)

中学校へスムーズに移行できるように学習面、生活面での指導のあり方について、連携を深める。

◎下條寿嗣(片丘小) ○中原典子(片丘小)

倉科高志(広陵中) 町田恵美(桔梗小)  
原 貴志(広丘小) 倉島千幸(丘中)

中野博文(吉田小)  
小中連携(塩尻2)

中学校へのスムーズな移行のための小中学校での英語学習指導のあり方について連携を深める。

◎勝野雅文(塩尻西部中) ○井沢千浩(塩尻中)

高松陽子(塩尻西部中) 中野邦彦(洗馬小)  
山内三幸(塩尻西小) 内貴良宏(塩尻東小)

市河 泉(榑川中) 小泉豊土(木曾榑川小)  
小口直実(両小野中) 久保田公子(宗賀小)

##### 小中連携(中央)

中学校への期待を高める小中連携はどうあったらよいか。〜中1ギャップを乗り越えるために〜

◎山中秀樹(朝日小) ○松村 大(山形小)  
大久保あきほ(朝日小)

##### 小中連携(北部)

小中の学習面、生活面での指導・支援のあり方についての連携を深める。

◎福田弘彦(麻績小) ○宮下智恵美(筑北中)  
木船 威(生坂中) 村石真理子(生坂小)  
下平良洋(坂井小) 堀田茂樹(聖南中)  
召田和美(筑北小) 鳥海 康(麻績小)

##### 学力検討

東筑摩郡及び塩尻市の児童生徒の学力の実態分析及学力向上への提案を行う。

◎湯本正芳(丘中) ○早田 純(桔梗小)  
小野織江(塩尻西小) 福島達也(塩尻中)  
曾山 啓(麻績小) 手塚健介(筑北中)

#### 専門部

##### 道徳教育委員会

友だちと考えを伝え合いながら、主体的に道徳的価値の自覚を深めていく授業。

◎横山卓朗(榑川中) ○大野幸子(広丘小)  
水野裕太(塩尻東小) 塩原千史(宗賀小)  
塩原俊郎(塩尻中) 神田彩子(榑川中)  
中沢順子(山形小) 峯村 学(筑北中)

#### 作品展運営部

##### 書道展委員会

児童生徒の書写力・鑑賞力を高め、指導者の資質の向上を図るための県展審査及び

巡回書道展の企画・運営。

◎北條泰瑞(麻績小) ○大久保法子(吉田小)  
柿崎和子(木曾榑川小) 笹川美佐子(広陵中)  
竹平三枝子(朝日小) 藤原朱実(生坂小)

##### 科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成。

◎小河保宣(塩尻東小) ○杉村諭志(朝日小)  
金子和弘(桔梗小) 宮崎みつ枝(広丘小)  
北澤秀憲(吉田小) 藤澤 彬(聖南中)

##### 美術展委員会

各校の児童生徒作品の研究を通して、児童生徒の表現に対する「見る眼」を養う。また、巡回展を通して多くの児童生徒が様々な作品と接し、美術感覚を高める。

◎村上 啓(広陵中) ○吉江伸一郎(片丘小)  
鳥川知恵(広丘小) 高野菊丸(両小野中)  
土井田直子(山形小) 太田浩介(生坂中)

##### 読書感想文委員会

児童生徒が読書の楽しさを感じることができるような読書感想文の書き方の指導はどうあったらよいか。

◎折橋善文(宗賀小) ○橋 幸恵(塩尻東小)  
武井俊之(広丘小) 百瀬玲子(木曾榑川小)  
鎌倉 悠(塩尻西部中) 山田綾子(生坂中)

#### 事業部

##### 会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌会報の発行。

◎小坂寿樹(広丘小) ○坂口弥生(筑北小)  
北村知香(宗賀小) 小松葉子(塩尻西小)  
関澤京子(洗馬小) 鎌崎 実(広陵中)  
横山貴士(丘中) 二宮千晴(山形小)

##### 資料室委員会

教育会所蔵資料整理及び目録作り。

信濃教育(三十一年十一月)の原稿執筆に向けての資料収集と整理。

- ◎吉越秀之(聖南中)・牛山雅恵(塩尻西小)
- ◎二宮聡志(桔梗小)

- 田中正幸(吉田小) 中嶋廣多郎(片丘小)
- 田中和彦(両小野中)

情報ネット委員会

教育会ホームページコンテンツの検討と構築。

- ◎山下 同(宗賀小)◎下平良洋(坂井小)
- 長谷川智久(洗馬小) 中野拓哉(丘 中)

二 県外視察・自主研究

- ◎中島 洋(塩尻中学校)

熊本市白川小学校

自主研究(信濃教育会「教育論文・教育実

践賞)

・東筑摩塩尻教育会からも研究助成金がかかりますので、ご応募ください。

三 助成事業

教科等研究会

国語

- ◎宮川源三郎 ○井出宏幸

・夏期研修会への参加

・長野県国語研究協議会への参加

・学会誌「信州国語教育」90号「会報」

80号の発行・授業研究会等

社会

- ◎窪田尚幸 ○鳥海 康

・定期総会・夏期研修会・講演会

・研究の推進・実証授業

・信州社会科学教育研究会・塩筑支部としての活動等

算数・数学

- ◎宮澤 浩 ○齋藤芳樹

・第67回長野県算数数学教育研究大会への参加

・中信ブロック大会への参加

・県の研修会への参加

・松本支会との合同研修会

・授業研究会等

理科

- ◎中澤美三 ○小松 猛

・授業研究委員会・実験講習委員会

・研修委員会・HP運営委員会等

音楽

- ◎岩下史弥 ○塚原まゆみ

・東筑摩塩尻教育会定期総集会の合唱発表

・実技講習会(合奏法講習会)

・授業参観・講演会の呼びかけ、案内等

美術

- ◎村上 啓 ○川船 賢

・「長野県児童生徒作品展(図工・美術の部)」「今を生きる子ども絵展」の審査

・郡展(巡回展)準備及び作品研究会

・塩尻市図工美術展準備

・長野県美術教育研究大会(上水内大会)への参加

・公開授業、授業研究会等への参加

・松塩筑美術教育研究会会員作品展

・「塩筑教育」のカット作成協力等

・関東ブロックへの参加

・関東甲信越ブロック大会に向けての研究

・研究会・研修会の計画と実施等

・英語教育研究会(小学校と中学校英語

教育をつなぐために①②)等

英語

- ◎勝野雅文 ○宮坂 晃

・英語教育研究会(小学校と中学校英語

教育をつなぐために①②)等

・英語教育研究会(小学校と中学校英語

の見学等

- ◎福田弘彦 ○長谷川久江

・夏の研修会の開催

・養護教諭指導者養成研修伝達講習等

カウンセリング

- ◎牛山雅恵 ○可知貴彦

・研修会(学級における合理的配慮につ

いて)、松塩筑合同研修会、夏・冬の研

修会への参加

・研究会の開催等

情報

- ◎宮下明浩 ○下平良洋

・研修会(プログラミング学習、ICT

機器の活用、情報モラル指導について)

・講演会やセミナーの紹介・参加等

総合的な学習の時間・生活科

- ◎林 とよ美 ○塩川一砂子

・教育課程研究協議会への参加

・研修会等

発達障がい支援

- ◎山田典史 ○島村優子

・講演会・事例検討会、教材研究等

編集後記

一学期も残りわずかになってきました。本年度も会報を通し、会員の皆様の相互理解を深められるような編集を目指してまいりたいと思います。

お忙しい中、ご寄稿くださいました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

